



日本の昔話

イラスト 若林 夏

むかしむかし、あるおてらにふるどうぐあつめが
だいすききな、おしょうさまがいました。

あるときおしょうさまは、
それはそれはりっぱなちやがまを、
手に入れました。
この日もちやがまを出してきて、
しげしげとながめながら

おしょうさま

「ああ見れば見るほど
いいちやがまじゃわい」

おしょうさま

「このちやがまで
ゆをわかつて、
おちやをたてれば
みんなびっくりする
じやろうて・・・」

と、かんがえているうちに
おしょうさまは、
コックリコックリ
いねむりはじめました。



すると、どうしたことでしょう。
ちやがまがカタコトうき出しました。
けれどもおしょうさまは、
いねむりをしてきづきません。
そのうちヒョッコリあたまがでてきました。
つづいて手足やしっぽがニヨキニヨキはえ、
ノソノソあるきだしたのです。
カタン、ゴソゴソゴソゴソ
ものおとをききつけた
こぞうさんが、
おしょうさまのへやを
そうつとのぞいてみました。

こぼうず

「うつうわく！たいへんだ！
ちやがまがばけた。
おしょうさまおしょうさま。
たいへんでございます！」



おしょうさま「なんじゃ、なんじゃ、やかましいのう」
こぼうず「ちゃ、ちゃ、ちゃがまに

足がはえてあるいております」

おしょうさま「なに？ちゃがまに足がはえた！
そんなバカな」

おしょうさまが

へやを見まわすと、

ちゃがまはもとのところに、
ちよこんとおいてあります。

おしょうさま「なにを

いっておる。

ちゃがまはちゃんと

そこにあるじゃないか」

こぼうず「あれあれ？

こいつはへんだぞ。いままで
たしかにあるいていたのに」

おしょうさま「いいかげんなことをいいおって、
せっかくいいいきもちでねていたのに、

おきてしまったではないか。あっちへいきなさい！」
こぞうさんは、しぶしぶへやへもどっていきました。

こぼうず「おっかしくなく」



そのばん、おしょうさまはひとりでおちやをたてようと、水を入れたちやがまを、火にかけました。しばらくしておゆがわくと……。ちやがまはきゆうに、おとをたてはじめました。



ちやがま

♪ブンブクブクブク

ブクブク

アチアチアチ

アッチッチー

ブンブクブクブク

ブクブク

アチアチアチ

アッチッチー♪

アチアチアチ

アッチッチー。

おしょうさま「たったいへんじゃ！

ちやがまがばけた。だれか！だれかつかまえてくれ！」

こぼうず「おしょうさま！」

こぞうさんはすぐにかけつけ、ちやがまをつかまえました。でも、そのときはもう手も足もしっぽもなく、もとのちやがまのままでした。

おしょうさま「こいつはとんだものをかいこんだ。こんなあやしいちやがま、もっていてもしかたがない。うってしまおう」

あくる日、おしょうさまはなじみのふるどうぐやさんをよびました。

ふるどうぐや「ほー、おしょうさま。

こいつはりっぱなちやがまじゃございませんか。どうしてうっちまうんです？」

おしょうさま「いやあ、ほかにもっとよいのをかったから、これはいらなくなったんじゃない」

ふるどうぐやさんはよろんで、ちやがまをかいとり、いえにもってかえりました。

そのよる、ふるどうぐやさんがねていると、まくらもとでこえがします。

ちやがま

「ふるどうぐやさん・・・
ふるどうぐやさん・・・」

ふるどうぐや

「お、お、おまえは
さっきのちやがま！」

ちやがま

「へへへ、
おどろいちやました？」

ふるどうぐや

「おどろくにきまってるじゃねえか。

てつでできたちやがまとばかり

おもってたのに、いま見りゃ、

あたまが出るわ、しっぽは出るわ、

けむくじやらの足はやして、

こえをかけられた日にゃ、

だれだってきもをつぶすわい。

いったいおまえはなにものだ？」



ちやがま

「あっしは、ぶんぶくちやがまともうします。たぬきがばけたちやがまです。」

おやじさん、どうかあっしをここにおいでくださいな。きつと、ほんとのちやがまよりおやくにたちます」

ふるどうぐや

「うーん。まあ、おいてやってもいいが・・・」

ちやがま

「あっしだって、ただでおいてもらおうとは

おもってやしません。おれいにげいをいたしましょう。

たかくいとこに、ピーンとはったつなを

ひよいひよいっととびながら

つなわたりをいたしましょう」

ふるどうぐや

「ほー、そいつはおもしろい。」

よし、そうときまれば

ふるどうぐやのしょうばいはやめだ！」

ちやがま

「それはようございます！」

ではさっそく、おきやくが入るこやを、つくってくださいな」

ふるどうぐやさんは、あくる日からこやをこしらえ、
しゃみせんやたいこのおはやしをやとい、
おもてには大きなかんばんをあげました。

ふるどうぐや

「さあよってらっしやい、
見てらっしやい。
よにもふしぎな
ちやがまのげいでござい。
ナントうごくちやがまが
つなわたりのげいを
ひろういたしまする。
どなたさまも、
とくところうじろ！
さあさ、おだいは見ての
おかえりだよ。

ぶんぶくちやがまの
つなわたり」

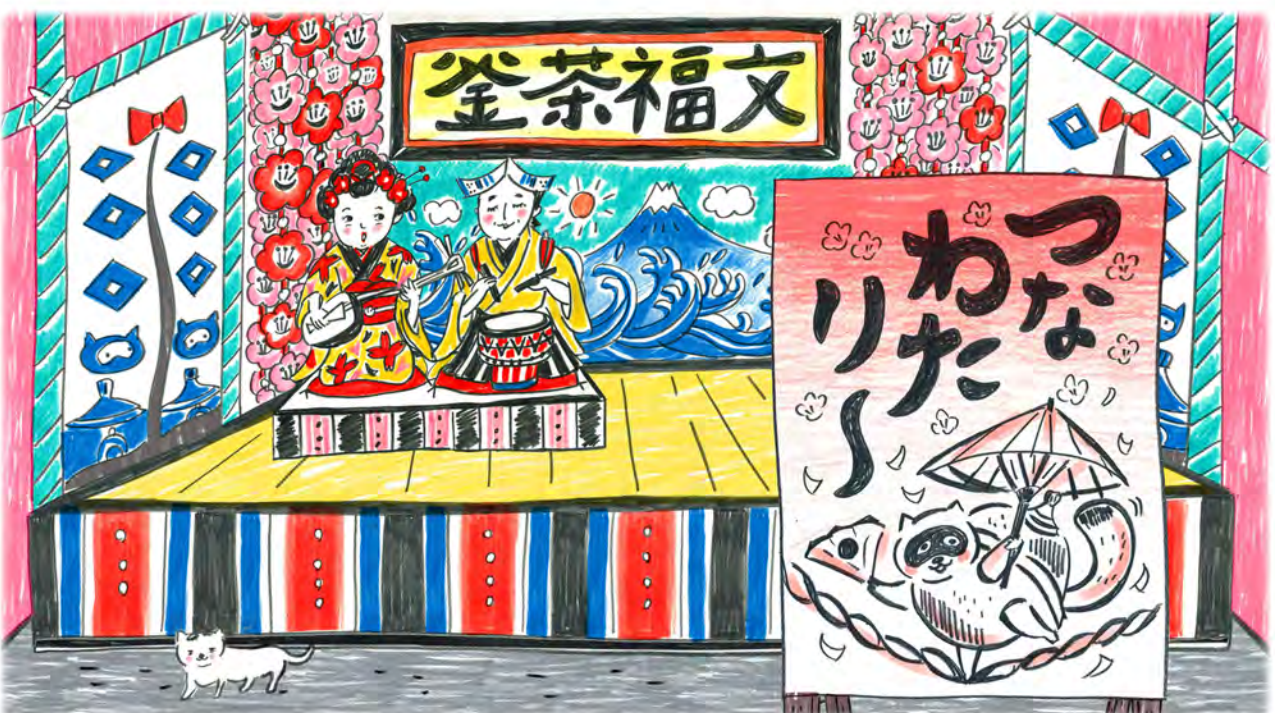
けんぶつきやく

「へーちやがまのつなわたりだってよ。」

「ちよいとのおいでしてみようかね？」「うい、ういー」

「おいらも見る」

するとぶんぶくは、がくやから「ヒョ」ヒョ」でできて、
けんぶつきやくにおじぎをし、
すぐにつなわたりをはじめます。



ちやがま♪

アラヨツコラサアラサッサ!

チヨイチヨイチヨイナチヨイサッサ

ぶんぶくちやがまのつなわたり♪。

ちやがまに手足がはえたためきが

つなわたりをするとあつて

けんぶつきゃくは大よろこび

けんぶつきゃく

「おもしろいわ」

「こいつはゆかいだ!」

「ちやがまいいぞ〜!」

ちやがま

♪アラヨツコラサアラサッサ!

ホレホレホイナホイサッサ

ぶんぶくちやがまのつなわたり

けんぶつきゃく

「なんてこつたあ、ためきがつなわたつてるよ」

「こいつはゆかいだ」 「ぶんぶく〜!いいぞ〜!」

「がんばれ〜!」 「いいわよ〜」 「もっとやれ〜!」

たちまちひょうばんになり、

こやはまいにちわれんばかりの大入りです。

ひと月もたたないうちに、ふるどうぐやさんは、

大がねもちになりました。



そんなある日のこと、
ふるどうぐやさんはまいにち
いっしょうけんめいげいをする、
ぶんぶくにいいました。

ふるどうぐや

「ぶんぶく、おまえのおかげで、
大もうけさせてもらった。

ありがとうよ。

じゃが、まいにちげいをして、
さぞかしくたびれたろう。
もうおわりにしよう」

ちやがま

「そうですか。
おやじさんがそう
おっしゃるのなら、
そういたしましょう」



ふるどうぐやさんは、
小やをしめることにしました。

そして、ちやがまをもって
おてらへいき、
おしょうさまにいいました。

ふるどうぐや

「こんなに大もうけ
できたのも、すべて
おしょうさまから
このちやがまをゆずって
いただいたおかげです。
ありがとうございました」

ふるどうぐやさんは、
もうけたお金のはんぶんをつけて、
ちやがまをおてらへおさめました。



そして、たぬきは
ぶんぶくちやがまとあがめられ、
おてらのたからものとしていまも
まつられているそうなの。
めでたしめでたし。



お
わ
り